

8 歩いた後のお楽しみ

屋台や汁のもてなし満喫



初夏の伯耆路を巡る「第9回日本海未来ウオーク」。最終日の7日は、どんよりとした空

となったが、各コースのウオーカーたちは、厚い雲を吹き飛ばすかのように、元氣よく歩いた。

この日は、県中部にゆかりがある偉人のスポットを巡りながら歴史探訪を楽しむ4コースを設定。このうち、倉吉市から北栄町、琴浦町を歩く23キロの「小



ゴール後、八雲弁当を味わうウオーカー＝7日、琴浦町八橋の旧中井旅館前

町八橋の旧中井旅館前では、屋台などのテント村が設けられ、正午前から次々と到着するウオーカーを温かくもてなした。

テント村では、同町のやまびこサークル（幅田佐美子代表、11人）が手作りの「八雲弁当」を用意。山菜おこわをメインに、八雲ゆかりの奈良漬「由良漬」が添えられた弁当は、あらかじめ注文していたウオーカーにゴール後に手渡した。

無料で振る舞われた汁とともに弁当を味わった横浜市の手島信子さんと杉本佳子さんは「とてもおいしかった。深く印象に残ります」と話していた。

お礼

「第9回日本海未来ウオーク」は6、7の

両日、全国からのウオーカーや親子連れら延べ2800人、地元ボランティア延べ500人が参加して、盛況のうちに終了しました。

各自自治体、各団体・企業の皆さまに心より感謝いたします。また、大会の円滑な運営のためにご協力いただいた各団体とボランティアの皆さま、そして会場周辺とコース沿道の住民の皆さまに

主催

お礼を申し上げます。
NPO法人未来日本ウオーキング協会
鳥取県ウオーキング協会
鳥取県中部医師会
新日本海新聞社